

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	〔 掲 載 号 〕
学術集会・講習会		
2007年10月 3 日(水)~ 2008年 2 月15日(金)	平成19年度統計数理研究所公開講座(東京・統計数理研究所)	〔 430 〕
12月24日(月)~ 2008年 1 月 6 日(日)	ウインター・サイエンスキャンプ '07 ~ '08	〔 431 〕
2008年 5 月24日(土)~ 25日(日)	第11回マリンバイオテクノロジー学会大会(京都市・京都大学吉田南総合館北東棟)	〔 433 〕
9 月 5 日(金)~ 7 日(日)	日本動物学会第79回大会(福岡市・福岡大学七隈キャンパス)	〔 433 〕
25日(木)~ 27日(土)	日本植物学会第72回大会(高知市・高知大学 朝倉キャンパス)	〔 433 〕
国際会議		
2008年 1 月25日(金)	第24回資源生物科学国際シンポジウム「微生物研究の新展開 - 資源・環境・ゲノム - 」 (岡山・岡山大学創立五十周年記念館)	〔 432 〕
9 月22日(月)~ 26日(金)	第18回国際生気象学会議(The18 th International Congress of Biometeorology) (東京・タワーホール船堀)	〔 428 〕
公 募		
2007年12月20日(木)	ソルト・サイエンス研究財団平成20年度研究助成	〔 431 〕
31日(月)	平成19年度「風戸研究奨励賞」	〔 430 〕
2008年 1 月11日(金)	第49回藤原賞	〔 433 〕
15日(火)	平成20年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究，応用研究，環境改善 計画のための助成研究	〔 432 〕
28日(月)	第49回科学技術映像祭参加作品	〔 433 〕
2 月 4 日(月)	第39回 平成20年度 三菱財団自然科学研究助成	〔 433 〕
20日(水)	第 7 回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(春季)	〔 426 〕
20日(水)	第 2 回内藤記念フェローシップ(サバティカルリープ)	〔 春季 〕〔 426 〕
29日(金)	2008年度山田科学振興財団研究援助	〔 430 〕
3 月31日(月)	平成20年度公益信託林女性自然科学者研究助成基金	〔 433 〕
31日(月)	平成20年度公益信託山村富美記念女性自然科学者研究助成基金	〔 433 〕

生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合の詳細については、本ニュースの巻末をご覧ください。

生物科学ニュース編集委員会 電話 03-3814-5461 (10時半から4時まで(水曜日のみ))

FAX 03-3814-6216 E-mail bsnews@bsj.or.jp

(社)日本植物学会, (社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

FAX 03-3814-5352 E-mail bsj@bsj.or.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

FAX 03-3814-6216 E-mail zsj-society@umin.net

 学術集会

・第11回マリンバイオテクノロジー学会大会が、平成20年5月24日(土)～25日(日)に、京都大学吉田南総合館北東棟(京都市)で開かれます。内容は次のとおりです。

一般講演(口頭発表, ポスター発表), シンポジウム(一般), 懇親会が行われます。

一般講演はつぎの9セッションを予定しています。1) 微生物, 2) 微細藻類, 3) 海藻・付着生物, 4) 魚介類, 5) 天然物化学・未利用資源, 6) バイオミネラライゼーション, 7) マリンゲノム, 8) 環境・環境適応, 9) その他

懇親会は、5月24日(土)午後6時～8時)京都大学生協吉田食堂で行われます。

発表希望の方は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先、発表希望セッション、希望発表形式、発表者氏名・所属略記(連名の方全員)、演題を明記の上、申し込んでください。発表形式: 1) 口頭発表: 一般講演は質疑を含み15分、液晶プロジェクター使用, 2) ポスター発表: 学生を対象とした優秀ポスターの表彰を予定。申し込みはホームページ経由で受け付けます。詳細は大会ホームページでご確認ください。発表申込の締切は平成20年3月14日(金)(必着), 発表要旨の締切は、平成20年4月18日(金)(必着)です。

シンポジウムの企画を公募します。シンポジウムの企画をご希望の方は大会事務局までご連絡ください。

参加登録希望者は書式にしたがって、申込者氏名・所属および連絡先を明記の上、ホームページ経由で申し込んでください。詳細は大会ホームページでご確認ください。〔問合先〕大会事務局: 606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間・環境学研究所 第11回マリンバイオテクノロジー学会大会実行委員会 TEL & FAX 075-753-7928 E-mail: miyashita@hml.mbox.media.kyoto-u.ac.jp 第11回大会ホームページアドレス <http://hawk.kyoto-bauc.or.jp/gakkai/mbt2008/> 学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsmb/index.html>

 公 募

・第49回藤原賞の推薦が公募されています。

自然科学分野で、科学技術の発展に卓越した貢献をした人に、賞状、賞牌および副賞(1,000万円)が贈られます。賞は2件です。

応募を希望する方は、詳細を学会に問い合わせてください。締切は動物学会、植物学会とも、平成20年1月11日(金)です。学会への書類の提出の際に、オリジナル以外に、動物学会は7部、植物学会は2部のコピーが必要です。

・第49回科学技術映像祭参加作品が募集されています。

科学技術に関する優れたテレビ番組や映画、ビデオ作品などの参加作品を募集しております。科学技術に関する作品であれば、個人制作作品も受け付けています。基礎研究部門については特に研究業績発表のために用いた映像も研究発表資料とともに審査いたします。申込書はホームページよりダウンロードできます。

部門は「科学教育」「基礎研究」「科学技術」「医学」「ポピュラーサイエンス」それに「マルチメディア」特別部門。

募集対象は、日本所在の映像製作者、企画者(企業等)、テレビ局、研究機関、及び個人で2007年2月1日～2008年1月31日までに完成(予定)または放映した科学映像作品です。

賞の内容は、最優秀作品賞(内閣総理大臣賞)1作品、文部科学大臣賞14作品です。応募締切は、2008年1月28日(月)です。

〔応募・問合先〕102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 日本科学技術振興財団 振興事業部内 科学技術映像祭事務局 TEL 03-3212-8487 FAX 03-3212-0014 E-mail: filmfest@jsf.or.jp ホームページ <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>

・第39回(平成20年度)三菱財団自然科学研究助成の対象者が募集されています。

科学・技術の基礎となる独創的かつ先駆的研究とともに、既成の分野にとらわれず、すぐれた着想で新しい領域を開拓する萌芽的研究に期待して助成を行います。自然科学のすべての分野にかかわる、すぐれて独創的な研究を助成の対象とします。さらに複数の分野にまたがる新しい現象を模索する実験・理論や、環境問題の基礎的研究も対象となります。助成金額は、総額約3億円、1件2,000万円以内です。

応募開始は2008年1月7日(月)で、応募締切は2月4日(月)(必着)です。詳細はホームページ(<http://www.mitsubishi-zaidan.jp>)をご覧ください。

〔問合先〕100-0005 東京都千代田区丸の内2-3-1(三

菱商事ビル21階) (財)三菱財団事務局 TEL 03-3214-5754 FAX 03-3215-7168

・平成20年度公益信託林女性自然科学者研究助成基金の助成対象者が募集されています。

わが国の大学、国立または非営利事業財団等の研究機関において、自然科学(化学及びそれに関連する物理学・生物学)の基礎研究に従事する若手女性研究者(国籍を問わない)に対し、次の助成が行われます。1)研究助成:15件程度、総額約2,000万円。2)林フェロー:博士号を目指す若手研究者(100万円)5名程度。2年間助成。3)国際研究交流助成(国際研究集会での研究発表、海外での共同研究のための渡航):年10件程度、総額150万円。

申込締切は、2008年3月31日(月)です。3)については受託者に問い合わせください。申請書は中央三井信託銀行のホームページからダウンロードしてください。(http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k-topm.html)

〔申込・問合せ先〕105-8574 東京都港区芝3-33-1 中央三井信託銀行本店法人営業部公益信託課 林基金担当 TEL 03-5232-8911 FAX 03-5232-8919

・平成20年度公益信託山村富美記念女性自然科学者研究助成基金の助成対象者が募集されています。

わが国の大学、国立または非営利事業財団等の研究機関において、自然科学(化学及びそれに関連する物理学・生物学)の基礎研究に従事する若手女性研究者(国籍を問わない)に対し、次の助成が行われます。山村フェロー:博士号を取得している若手女性研究員(200万円)3名程度。2年間助成。申請締切は2008年3月31日(月)です。申請書は中央三井信託銀行のホームページからダウンロードしてください。(http://www.chuomitsui.co.jp/koueki/k-topm.html)

〔申込・問合せ先〕105-8574 東京都港区芝3-33-1 中央三井信託銀行本店法人営業部公益信託課 山村基金担当 TEL 03-5232-8911 FAX 03-5232-8919

書 評

ホルモンの人間科学 山内兄人著、コロナ社、2006年、250頁、2,700円(本体価格)

本書はホルモンとは何か、生きていくうえにおいて不可欠である様々なホルモンの役割、そして、その内分泌

器官の構造と働きについて知るために最適な一冊である。本書は、著者が人間科学を学ぶ学生に内分泌学と脳の構造と機能について教える中で、生活に根ざした内分泌学の入門書の必要性を感じ、まとめられた本である。

1章から7章では、からだの中でのホルモンの役割を解説しており、ホルモンがいかに多くの機能に関わっているかを知ることができる。8,9章では、内分泌器官の構造と作用について解説している。昔は内分泌腺から分泌されるものがホルモンであるとされていたが、現在では、神経細胞をはじめ心臓、消化管からもホルモンが分泌されることが明らかになっており、実に様々な器官がホルモンを分泌していることが分かる。

精密に分泌されている様々なホルモンによって、人間のからだの働きの調子が整えられ、ストレスから体を守られている。さらに子供を作り、成長するのも、性別の決定するのもホルモンの作用によるものである。こうしたホルモンを知ることとは人間にとってとても重要である。しかし、私自身が学生の時分には、多くのホルモンの名称とその分泌器官を暗記するのに精一杯で、実際の生活の中でそのホルモンがどのようにからだに働き、どう重要であるかを理解することは容易ではなかったと記憶している。したがって、体系的でわかりやすいことはもちろん、生活に根ざした解説があるととても理解に役立つと感じた。

近年のホルモンに関する研究は、分子生物学的手法により、遺伝子レベルの研究が日進月歩で進んでいる。本書ではその部分はあえて省いてあるのが残念であるが、今後、その部分について本書のように分かりやすくまとめられた本が出版されることを期待したい。

本書は、ホルモンについて分かりやすく学ぶために必須の入門書である。専門分野に関わらず広くホルモンについて学ぼうとする人におすすめである。

(理化学研究所・BSI 鈴木研太)

図説 哺乳動物百科 第2巻 北アメリカ・南ヨーロッパ 遠藤秀紀監訳、朝倉書店、2007年、86頁、4,500円(本体価格)

本書、図説 哺乳動物百科 全3巻の第2巻の発刊となりました。南北アメリカ大陸の個性豊かな哺乳動物が紹介されています。一般に野生動物となればアフリカを一番に思い浮かべますが、アメリカ両大陸も個性的な哺乳動物が多く住んでいる地域であることが改めて認識できました。

(4)

北アメリカ森林で、特に今までの思い込みをひっくり返されたのが、アライグマの習性と名の由来でした。「アライグマの前足には、長く器用な『指』がついており、- 中略 - 川や水たまりの中で、手探りで餌を探すのにも使う、このしぐさが食べ物を『洗っている』ように見えるのである。実際は - 中略 - 水中の泥の中の食べ物を掘り出そうとする、本能的な行動だと考えられている。」アライグマがものを洗って食べることは、スターリング・ノースの原作のアニメにすり込まれていた感があります。

南アメリカ湿地では、山岳地域の川に暮らすミズオボッサムが特に変わっているようだ、水中で餌を取るために水の潜る時袋の周りの筋肉を締めて水が入らないようにしても、子は酸素が少なくても大丈夫らしく、実に都合の良くできている仕組みのようである。続いてのページに見開き画面一杯に、ジャガーが鎧を纏ったアルマジエロを捕まえているシーンは圧巻である。

まだまだ多くの動物がいてそれぞれに環境に適した生活をしているのが、生き生きと表わされているのがすばらしく、吸い込まれるように読み終えてしまいました。このような本は多くの方が読まれ、地球上の動物たちに安住の地が狭められないことを願ひこの本の購読をお勧めします。

((財)環境科学総合研究所 勝倉光徳)

細胞工学別冊 植物細胞工学シリーズ23 植物の進化—基本概念からモデル生物を活用した比較・進化ゲノム学まで— 清水健太郎、長谷部光泰監修、秀潤社、2007年、212頁、4,200円(本体価格)

本書は、植物の進化の基本法則から進化ゲノム学までの専門的な事柄を、専門家でない読者にもわかるように解説しているので何とか読み進むことができました。これまでは、植物の進化について、興味がわいても、それぞれの分野の本を読みこなさないと、ここまでは辿り着けない程の深い理解が得られことに感服しています。

私が特に惹かれた内容は、Short Topics イネのゲノムに関する研究で、「ゲノムワイドな生殖的隔離障壁検定と相互作用因子」の項で、「インディカとジャポニカが分化するときに生殖的隔離がはたらいたのではなく、インディカとジャポニカが遺伝的に離れた後で、それぞれ系統ごとに蓄積された変異によって生殖的隔離障壁が生じたと推定でき、インディカとジャポニカの異所的種分化を支持するものである。」とインディカとジャポニカ

の様々な疑問をイネゲノム解読により、ますますイネに関する研究が進んでいく予感がします。

第2章では、これまでに諸説が入り乱れていた、イネの栽培化に関して、ゲノム解読により、その起源が1万年前に溯ることや、インディカとジャポニカの分岐が40万年以上前との分析結果が出ていることなどや、野生イネの自生地も明らかになりつつあり、ますますこの分野に興味がわいてきました。

地球環境変動による植物分布の変化など、まだまだ多くの分野で興味のそそられる研究が数多く掲載されていますので多くの方が購読されることをお勧めします。

((財)環境科学総合研究所 勝倉光徳)

キャンベル生物学 Campbell and Reece 著、小林 興監訳、丸善、2007年、1494頁、15,000円(本体価格)

2009年の第20回国際生物学オリンピックが日本で開催されることはご存知の方も多いかと思います。国際生物学オリンピックで金メダルを獲得した米国の学生が愛読したというのがこの「キャンベル生物学」であり、国際生物学オリンピック日本委員会もこの本を推薦しています。この本は広範な生物学の領域のかなりの部分をカバーしていますが、決して浅く広くというわけではなく、(少なくとも細胞などについては)相当に深いところまで触れており大学院の試験にも十分対応できる内容であります。確かに「この本の内容を理解して、覚えておけば金メダルも夢じゃない!」という気はしますが、1000ページをはるかに235超える量なので、義務として読むのにはかなり大変なことでしょう。しかし、この本は単に教科書としてではなく、工夫された図表を眺めながら、多様な生物の多様な現象を拾い読みするだけでも十分楽しめます。そして、この本の非常に良いところは、現代の細分化された生物学の専門分野を相互に関係ある体系として理解する試みがなされているところです。これは、言うはやすく行うは「とんでもなく難しい」ところだともいいますが、その点については著者の気概が感じられるところです。著者はこの版(7版)が完成した直後に急逝されたとのことで非常に残念ですが、この本が広く読まれ、多くの生物学を志す人の記憶に彼の名前が刻まれることを願います。

(東京工業大学大学院・生命理工学研究科 立花和則)

寄贈図書の書評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。謝礼と致しまして書評した本を差し上げます。希望者は編集委員会まで葉書、FAX または E メールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領をお送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたにお願いするかは編集委員会に一任願います。尚、出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評、および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。お書きいただいた書評は、生物科学ニュースのみならず、日本動物学会および日本植物学会のホームページにも掲載される場合があります。この点を、あらかじめご了承ください。

マネジメントの生態学 - 生態文化・環境力回復・環境経営・資源循環 - 鈴木邦雄著 304頁 2006年 共立出版 3,300円(本体価格、以下同)/新・生命科学ライブラリ B5 細胞の形とうごき V 細胞の運動と制御 大日方昂著 206頁 2006年 サイエンス社 2,200円/よみがえる恐竜・古生物 ティム・ヘインズ、ポール・チェンバース著 椿 正晴訳 群馬県立自然史博物館監修 215頁 2006年 ソフトバンククリエイティブ 2,800円/環境生物科学 - 人の生活を中心とした - (改訂版) 松原 聡著 236頁 2006年 裳華房 2,600円/動物学名の仕組み - 国際動物命名規約第4版の読み方 - 大久保憲秀著 301頁 2006年 伊藤印刷出版部 2,858円/ヒグマ学入門 - 自然史・文化・現代社会 天野哲也、増田隆一・間野 勉編著 273頁 2006年 北

海道大学出版会 2,800円/ネズミの分類学 - 生物地理学の視点 金子之史著 302頁 2006年 東京大学出版会 5,000円/発生遺伝学 - 脊椎動物のからだと器官のなりたち 武田洋幸、相賀裕美子著 197頁 2007年 東京大学出版会 3,400円/免疫 からだを守る不思議なしくみ第4版 矢田純一著 182頁 2007年 東京化学同人 1,800円/分子遺伝学入門 - 微生物を中心に - 東江昭夫著 260頁 2007年 裳華房 2,600円/生物の多様性ってなんだろう? - 生命のジグソーパズル - 学術選書027 京都大学総合博物館・京都大学生態学研究センター編 313頁 2007年 京都大学学術出版会 1,800円/動物生理学 [原書第5版] - 環境への適応 - クヌート・シュミット=ニールセン著 沼田英治・中嶋康裕監訳 578頁 2007年 東京大学出版会 14,000円/コア講義 分子生物学 田村隆明著 132頁 2007年 裳華房 1,500円/人間のための一般生物学 武村政春著 200頁 2007年 裳華房 2,300円/図説 哺乳動物百科 第3巻 オーストラレーシア・アジア・海域 遠藤秀紀監訳 82頁 2007年 朝倉書店 4,500円/初歩からの集団遺伝学 安田徳一著 272頁 2007年 裳華房 3,200円/生物資源から考える21世紀の農学 第4巻 森林の再発見 太田誠一編 401頁 2007年 京都大学学術出版会 4,200円/ポピュラー・サイエンス 283 人と犬のきずな - 遺伝子からそのルーツを探る - 田名部雄一著 126頁 2007年 裳華房 1,500円 [連絡先] 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-6216 E-mail mkato@cc.ocha.ac.jp または chu@hc.cc.keio.ac.jp